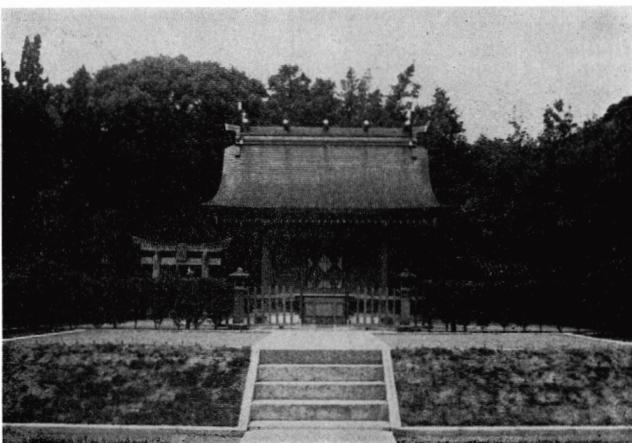


宗像護国神社竣工落成

よみがえった新社殿

—神郡宗像住民の総意の結集—



宗像護国神社、遷靈並竣工奉

告祭は八月十四日、同月十五日

の日間にわたり、関係者多数参

列の下、嚴粹・盛大に挙行され

斎行された。

八月十四日、午後八時、本殿南

側の假殿前に御祭奉行、御神

主は宗像神官、神職、遷族奉

さられた。献饌に引続き、平和国家

の守護神として更に御神威を発揚

されど共に、遷族会員、群民

の式典が行われた。當天社役者

の諸翁の行朱を守り導き給ひよ

う祈祝の祝詞が奏された。

八月十五日、午前一時三十分

より成功告祭行、戰没者追悼

の日、天皇陛下の英靈御時刻

に合わせての酷暑、炎天下の境内

に於ける神職、炎天下の境内

に於ける神職、炎天下の境内

に於ける神職、炎天下の境内

に於ける神職、炎天下の境内

に於ける神職、炎天下の境内



境内参道をまひつの声の如く、神廟の香もかく、

わい新殿に香渡された。ここに

二千三百二十井の尊い英靈が、

境内待望の新殿なつた神殿に鎮座

にしだすと誰も、松の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、



神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

神廟の香もかく、神廟の香もかく、

建造物を灾害から守る

(1)

早い時期に國土開発がなされ、

それが以前「日本書紀」による

有形・無形の文化財が数多

く現存している。

時代に建造物に関

しては、神社・仏閣がその主流を

占めている。

時代が流れ、時代の社会に

各地で城郭等を中心とした市

街が成立し、区画も整備されて

見ないほど多く、

建被され、町並みも整ってく

る。これら

時代が流れ、時代の社会に

飛鳥・花陵の時代、五三八年といわれている。

事は、現代

に亘り、

建造物に関する考

え

る。

時代が流れ、時代の社会に

各地で城郭等を中心とした市

街が成立し、区画も整備されて

見ないほど多く、

建被され、町並みも整ってく

る。これら

時代が流れ、時代の社会に

